

## 女性研究者研究活動支援事業（一般型）

(実施期間：平成 25～27 年度)

実施機関：芝浦工業大学（総括責任者：村上 雅人）

## プロジェクトの概要

学長・理事長直轄の男女共同参画室を設置し、理念や基本計画を策定し、その下に、具体的な施策の立案・推進部署として、女性研究者育成・支援室を設置し、以下の取組を実施する。

1)女性研究者が活躍でき、女性研究者の増員につなげる環境整備

①女性研究者ネットワーク『Shiba-jo プラチナ・ネットワーク』の構築、②メンター制度の確立、③就業時間等に関する学内ルールの見直し。

2)出産・育児・介護等を抱える女性研究者への具体的な支援

①女性研究者への支援に関わる情報の発信・ニーズの把握、②研究支援員の配置、③支援結果の評価・検証

3)理工系分野を志向する女性研究者増員のための活動

①数値目標を設定した女性研究者の積極的な採用、②多様なキャリアパスやロールモデルの提示、③シンポジウムや交流会・懇談会の開催、④父母懇談会による働きかけ

## (1) 評価結果

総合評価	目標達成度	取組	取組の成果	実施体制	実施期間終了後の取組の継続性・発展性
S	a	s	a	s	a

総合評価：S（所期の計画を越えた取組が行われている）

## (2) 評価コメント

学生及び教員の双方ともに、女性比率が低い理工系大学にあつて、法人と大学が一体となり戦略的に女性研究者の活躍促進を進めるとともに、学長の強いリーダーシップにより「戦略的人事の学長方針」を全学に浸透、共有させた。さらに、研究とライフイベントを両立させることのできる研究環境の整備、女性テニユア教員の増員、女性研究者の研究力向上や上位職への登用に係る様々な取組を組織的、体系的に展開し、着実に成果を上げたことは、高く評価できる。今後は、理工系女性テニユア教員の採用や上位職への登用に効果的であった取組について、他機関、特に他の理工系大学へ積極的に普及させることを期待する。

- ・ **目標達成度**：女性テニユア教員の採用を積極的に進め、採用割合 30%以上という高い目標を達成するとともに、常勤教員に占める女性割合に係る 12%という目標を達成したことは評価できる。
- ・ **取組**：ライフイベント中の女性研究者への研究支援員の配置、産前・産後休暇や育児・介護休業期間中の研究費配分、OGを含む女性研究者ネットワークの構築等により、女性研究者を取り巻く研究環境を整備した。さらに、学長の強力なリーダーシップの下、教員選考の面接審査の対象に女性を 1 名以上残す方針や業績が同等の場合は女性を優先して採用する方針の浸透、女

性教員採用の好事例の紹介等、特色ある取組を実施し、女性教員の採用を促進したことは、高く評価できる。

- **取組の成果**：研究環境の整備により、ライフイベントを理由とする女性教員の離職がなくなったこと、女性テニユア教員の採用割合及び女性の常勤教員割合が上昇し、目標値を達成し、女性教員が在籍しない学科が8学科から4学科に半減したことは、評価できる。さらに、科学研究費補助金を獲得した研究者に占める女性割合が2.5倍、女性研究者による科学研究費補助金獲得額が4倍に増加したことも、女性研究者の研究業績の向上として評価できる。
- **実施体制**：法人と大学との緊密な連携の下、理事長及び学長の直轄の組織として「男女共同参画推進室」を設置し、理事長及び学長の強いリーダーシップの下、組織的、体系的に事業を推進する実施体制を構築したことは、高く評価できる。特に、戦略的な女性教員の採用促進については、学長のコミットメントによるところが大きく、そのリーダーシップは高く評価できる。
- **実施期間終了後の取組の継続性・発展性**：実施期間終了後も、理事長及び学長直轄の実施体制と自主財源措置の両面において、継続性が担保されていることは評価できる。今後は、機関の中長期行動計画において、これまでに実施した取組を継続して実施していく方針を明確に示しており、さらなる発展が期待できる。